

車座トーク（自治会と市長との意見交換会）開催報告

対象地域：本通一丁目自治会

開催場所：本通一丁目公会堂

開催日時：平成 28 年 1 月 20 日（水）19 時 00 分～20 時 50 分

参加者：自治会側【地域住民の方 30 人】

市側【染谷市長、三浦秘書政策課長、高橋協働推進課長、秋山協働推進課課長補佐、駒形秘書政策課係長】

内 容

①新聞本通一丁目自治会長あいさつ

- ・私は自治会長になって 2 年目。5 年前にここに帰ってきて、会社を退社してきたんで、一丁目のことすら良くわからないことが多い。
- ・自治会の課題としては、少子化、小学生が 10 人くらいしかいない。世帯数は 220 世帯。アパートもあるので動き（世帯数の変動）がある。あと、空き家も増えており、自治会活動も若い人の参画が得られていないなどの課題はある。
- ・この公会堂も 2 階にあるということで、バリアフリーからかけ離れた状況にある。
- ・ただ自治会としては、老人会「菊月会」、「婦人部会」など活発な活動ができているほうではないかと思う。
- ・輪投げ大会なども市の大会で上位に入るなど、3 市の大会に出たりもしている。輪投げは毎週月曜日にここで練習している。
- ・今日出席の皆さんは、問題点や市長さんにお聴きしたいことをお持ち方が多いと思うので、積極的な意見交換ができればと思っている。

②市長からの市政報告

■はじめに

- ・68 自治会、全てを回る車座トークの第二回目、昨年 12 月に大津でやっている。今年のスタートの車座トークに、この本通一丁目にお邪魔できてうれしく思う。
- ・私も市長になって、3 度目の春を迎える。先日は、成人式の日、市民会館の前にある「帯桜」（希少品種で全国に一本しかない桜）を市長就任以来、苗を増やしていて、45 本に増えた。今年初めてその苗を記念植樹ということで、新市誕生 10 周年にあわせて、10 本、中央公園に記念植樹をした。
- ・20 年くらい経った時に、しまだの街中で、2 月の中旬に帯桜の花が咲く、そういう街をつくりたい。

■車座トーク実施の目的

- ・まちづくりには長い時間がかかり、また行政だけではできない。皆さん一人ひとりに「自分は島田のために何ができるのだろうか？」というような思いをもってもらおう中で、街は変わっていく。そういう私の考え方や思いを皆さんに知っていただいて、本通一丁目の抱える課題だとか、どういった解決方法を

探っていったらよいのか、そういったことをひざを交えて話ができればと思って参った。

■市政運営について

- ・先ほど自治会長さんから、少子化、空き家の問題、自治会に若い担い手が少ないというようなお話をいただいた。
- ・本日、ここに何うにあたって、人口などを調べてきた。昨年の12月31に現在の数値で、人口は389人、世帯数は189世帯、高齢化率は38.8%となっている。市の平均は29.0%であるので、そのポイントから比べると10%くらい高くなっており、約4割の方が65歳以上となっている。一方、15歳以下の子どもは、32人で人口に占める割合は8.2%で、全市の平均が13.8%となっていることから、高齢化していて、子どもが少ないということが自治会としての課題として見えてくると思う。
- ・市長就任から、3回目の春を迎え、この間、どういった思いで、市政運営してきたかという、常に自分の役割は何かということを考えながらやってきた。2年7ヶ月が経って、今思うことは、これまでも一貫して「人を大事にする政策」を心がけてきたと思う。
- ・「人を大事にする」ということは、政治の根本は、ここに住んでいる人たちの「命を守ること」。
- ・市内を見渡せば、いいところがいっぱいあるが、一人住まいの高齢者や高齢者の世帯が増えている。島田市の男性の生涯未婚率（一生一度も結婚しない人の人口に占める割合）は15%となっており、女性も結構な人数がいる。
- ・そうすると、高齢者で一人住まいの方や二人住まいが増え、かつ、単身の若い方の世帯も増えて、親の面倒を見ていて独身という人も増えている。これは島田だけではなくて日本全国そうだと思っている。そういう時代にあって、安心して暮らせる、市民生活を守るという大事な柱をしっかり持って、市政運営にあたること。
- ・もう一つは、若い世代の方をしっかり育てていかななくてはならない。この街に安定した職をつくり、収入を得て、若い人たちがここに住むことを選択できる街をつくらなければならない。
- ・同時に、子育て支援、教育などに力を入れてやっていくということで、例えば、お母さんが1人目のお子さんが2歳にならない前に妊娠して育休、産休に入ると、育休退園と言って、上の子を保育園に入れていても、一度退園させなければならないという制度があった。
- ・これは埼玉の所沢で問題になって、テレビニュースでも相当流れた。島田市では働くお母さんたちが増えていく中で、育休退園はやめようと、今年から廃止をする。
- ・育休退園は、ある意味、お母さんが家にいるなら（2歳未満の子が）家にいてもらって、代わりに待機児童の子を入れるということもあったが、育休退園は働く女性を支援するために必要だが、待機児童をゼロにすることも急務であるので、29年度を目標に待機児童ゼロにするために、今年第一、第三保育園は、職員室も保育室に代える。職員の休憩室も保育室に代えて、代わりにものを庭にプレハブで建てて対応する。
- ・あるいは民間で、0～2歳の子どもたちだけを預かる保育園を向谷に新しく整備していく。
- ・打てる手は全て打って、待機児童をなくす。また放課後児童クラブにもお子さんたちが行けるように、前倒しで整備するというように、色々な対策を打

ちながら、市民の生活を守るといことと、若い人たちに選んでもらえるような街をつくるということに力を尽くしている。

- ・ただ、今までのように人口が増えていって、土地の値段が上がっていくし、収入も明日もがんばればもっと良くなるし、といった時代を私たちは生きてきた。今は、人口は減っていくし、高齢者は多くなっていくし、子どもの数は減っていく。

- ・今、1人の女性が子供を2人産むようになったとしても、30～40年、日本の人口は減っていくという時代になったときに、右肩上がりはずっと信じてきた日本人が、そうではない時代になったときの新たな価値観、「どんな街が豊かな街か」と考えたときには、市民と一緒につくっていく、地域一つ一つを大事にして、地域の特性を活かして、そしてその地域の課題を、そこに住んでいる人と一緒になって解決していく、そういう街をつくっていきたいと考えている。

- ・そのために、政策も考えながら、「ガンバル地域をしっかりと応援していこう」という政策を打っている。

- ・これまで単年度だった「まちづくり支援事業交付金」は、6年間連続で出すということを今年（4月）からはじめていく。

- ・それぞれの地域が努力して、うちの地域の課題を解決しようと思うのであれば、それを応援していく仕組みをつくっていく。

■市民会館について

- ・役所も築53年を過ぎていることから、もし市役所を建て直すとしたならば、市民会館の場所しかない。そうすれば国の補助金も受けることができるということもあって、去年の3月に私が出した判断は、病院を最優先にする。それ以外にも、街を元気にするために使わなければいけないお金はいっぱいある。したがって、市役所はしばらくの間、今のまま使い続けようという判断をした。

- ・国も壊して新たなものをつくるならば補助金が出るが、今あるものを壊すだけでは補助金はない。国の制度のこれから変わっていかなくてはならないが、そうした中で、解体だけでも1億5千万円くらいかかる。

- ・去年の11月に、補正予算で市民会館を壊すための設計費を上げさせていただいた。新年度予算には、その解体工事費を上げるので、4月以降、できるだけ早く、工事に着手し、秋までには平地にしたい。できれば大祭に間に合わせたい。駐車場とイベント広場、中心市街地の方々の災害時の避難場所として使えるようにしたい。

- ・市民会館については、市民の皆様から大きく立て直して欲しいという要望もいただいているが、今立て直すと、単独で70～80億円程度はかかると想定している。

- ・市民会館の閉鎖する前の5年間の稼働率を見ると、1年のうちに練習日も含めて、ホールが使われているのは30日くらいとなっている。「プラザおおるり」にも「夢づくり会館」にも「チャリム」にもホールがある中で、優先順位として、今市民会館を単独で建て直すよりは、市民会館をつくることは、今度、市役所を建て直すときに、複合施設として造れないだろうか、その時にもう一度検討すればいいと判断している。

- ・造らないわけではない。だが、市民会館は市役所の建て直しと同時にやれるかどうかをもう一度判断していきたい。

- ・その頃になると、恐らく、おおるりの方も年数が経ってきているので、全体的に考えていかなければいけないと思う。

- ・1市2町が合併して、施設はすごく多くなった。同じようなものが3倍あるものもある。今後、維持管理を進めていくためには、その規模を適正にしていかなければならないということも行政の課題である。
- ・このため、昨年度「公共施設白書」を作成し、今年はその「再配置計画」をつくっていく。その中で、優先順位を決めて、「新たな施設を造るもの」、「長寿命化の工事をするもの」、「閉鎖するもの」を皆様の目に見えるようなかたちでデータをお示しして改善していきたい。

■新病院の建設について

- ・基本構想、基本計画まで策定し、28年度は、いよいよ基本設計に入る。先日、基本設計の業者の公募を締め切った。全国的に名だたる病院の設計事務所が手を挙げてきている。第一次審査が終わった後、3月13日（日）午前9時から「みんくる」で、一次審査を過ぎた病院の設計の提案（プロポーザル）を一般公開（全面公開）で行う。市民の皆様にも、是非、今の新たな病院のコンセプトや工夫がどのようにされて提案されるのか聞いていただきたい。一つの提案に概ね1時間はかかると思うので、一次審査にいくつ通るかわからないが、朝9時から順次やっていく。こうしたことも関心をもっていたらありがたい。
- ・余談ではあるが、金中跡地については、今、アイデアコンペを県と一緒に実施している。2月5日に締め切るので、2月の中旬までに市内4か所で、市民の皆様にその提案を見ていただいて、市民の皆様に投票をしていただくということをやる。
- ・その後は、審査員の先生方に審査をしていただくが、造園デザイナー、設計士、建築家、和食を世界遺産に押し上げた、熊倉功夫先生など名だたる方が審査員となっている。昨年末までに85のところを事前登録をしているが、そのうちいくつが出してくるかわからないが、全国から提案が集まっているので、市民の皆様にどのような金中跡地の使い方がいいのかを投票していただいて審査の参考にしていく。
- ・金中跡地については、28年度に、このアイデアをもとに、県と市で事業計画案を作成し、その後業者を選定するためのプロポーザルを経て、事業所を決めて、できるだけ速やかに、金中跡地の土地に空港隣接という新たな交流の拠点を整備したい。
- ・お茶の郷も6月1日には県に移管する。県の「ふじのくにお茶の都ミュージアム」として、リニューアルしてから、県が造る静岡県のお茶の拠点として、台地の上に完成する。リニューアルには少し時間がかかるが、29年度中にはリニューアルオープンして、世界お茶博のメイン会場として使われていくようになる。
- ・病院の話に戻るが、設計の段階にいよいよ入っていく。皆様にお示したように、街中の病院の建設はやめて、今の野田の土地に病院をつくるということを決めた。（ベット数は）445床で、今まで35床あった療養病床は廃止することにした。療養病床を廃止したら、島田では他に入院する病院がないのに、どうするのかという質問をいただいた。今ある療養病床は、退院調整のために、次の施設や病院に行くまでの期間、調整するというかたちで使われている。
- ・長く入院されている方は、1～2人である。この方々は、新しい市民病院ができて市民病院で面倒を見る。
- ・一方、この志太榛原地域には、療養病床が1,062床ある。県は需要を満たしている病床数だと判断している。新たな療養病床の開院については、大変審査が厳しいという状況である。県とも相談しながら、皆様が安心していただけるような行き先をつくっていかなくてはいけない。

・建設について、今の計画では、平成 32 年度の開院の予定。今年の基本設計、来年は詳細設計をやって建設に入る。今のところ、建設費用は 247 億円を計画しているが、できる限りこれからコストダウンを図っていききたい。建設費用は半分を病院が、半分を市の一般会計から出して、折半しながら病院を建てていく計画になっている。

■医療制度改革への対応（地域医療の充実に向けて）

・2025 年を目指して、国は大きく医療制度改革を行おうとしている。病院や施設から「在宅」へという流れ。介護保険ができてから、どんどん施設に入り、入所（入院）する方が多くなって、国の医療費は毎年 1 兆円ずつ増えている。国も借金が多くなってきて、このままでは地域医療を保てなくなるという中で、考え方を、できるだけ住み慣れた地域の中に居ていただけるような「方向転換」、そのために「地域医療を充実させなさい」ということを基礎自治体に言ってきている。

・このため、市では 28 年度から「24 時間訪問看護ステーション」をつくる。これは、今まで健康づくり課がやっていた訪問看護ステーションと病院がやっていた訪問看護ステーションを総合して、病院の健診センターの 3 階部分に「24 時間訪問看護ステーション」をおいて、先生方の指示に従って、医療行為ができる看護師が 24 時間、皆様のところに伺って医療行為をするということになる。

・これは高齢者の 1 割負担。所得の多い人は 2 割になるかもしれないが、だいたい 1 割負担で「24 時間訪問看護」が受けられることとなるので、「24 時間訪問看護ステーション」を充実させることと、「地域包括ケアシステム」を整えていくことと、できるだけ「要介護」になる前の「要支援」の段階で、皆様の運動機能を保つことや出かけていく所をつくるなど、健康で長生きしていただく政策をしっかりとやっていく。

・今、「新総合事業」という、全国に先立って昨年度から島田市が始めた。これは、介護認定を受けるのにはこれまで 2 週間から 1 か月くらいかかっていたものを、わずか 20 分で、アンケートに答えていただくだけで、それをチェックして皆様に必要な支援を、その日から受けてもらえるような制度も導入した。

・これは、「地域包括センター」（高齢者あんしんセンター）で専門のケアマネジャーがその検査をしてくれることになるので、ご希望のある方、困った方がいらした場合には、是非相談をしていただきたい。

・島田市の場合、入院できる病院が市民病院だけだということと、開院している先生方が高齢化してきていることから、往診していただける先生が減ってきている。ドクターの娘さんや息子さんもお医者さんという方がいるが、島田市に戻ってきて、お父さんの後を継ぐということが少ないというのが現状で、どうやって開業医を増やしていくのかということも大きな課題となっている。

■街中のにぎわいについて

・蓬莱橋周辺も多く観光客が来るが、何も建てられない状況であったが、国土交通省の許認可も少し緩やかになって、協議会を 1 年作って検討した結果については、「ミズベリング」という形で国土交通省の事業の一環として、許可をいただいて、蓬莱橋のところに、観光物産所（お茶をお出ししたり、お土

産物を売ったりすることができる施設) 造れそうだということで、今年は協議会を作って、造るのは29年度になる。

・この場所には、勝海舟の銅像を建てる予定で、現在、中条景昭の像が対岸に建っているが、中条景昭がこの島田に来たのは、勝海舟の命令で来ている。勝海舟は、開拓団として入ってきた中条景昭らに対して手厚く「がんばれ」、「日本の将来は君たちにかかっている」というような気持ちが熱くなるような手紙も出していて、その手紙が最近、千葉県で発見された。勝海舟が台地の方に手を広げている銅像を建てたいと思っている。

■空き家対策について

・今、移住・定住で空き家対策を行っているのは、中山間地域の川根地域となっている。空き家に新しい人が入ってきても、周りの人たちが面倒を見るのがないと定着しないということで、川根は面倒を見てくれる人たちを「まちづくり川根の会」の人たちをお願いをしている。

・街中の空き家も増えてきていることから、国も法律を変えて、「特定空家」というものがいくつくらいあるのか調べなさいということ saying きてきている。「特定空家」というのは、1年以上だれも住んでいなくて、かつ放置されていることによって周辺に危険が及ぶ崩れる心配があるとか、だれかがそこに入り込んで住んでしまうとか、心配がある空き家を「特定空家」として、1年以上放置されていることが確認されたときには、空き家の持ち主に、更地と同じだけの固定資産税をかけますということになっている。6倍になるということと同時に、危険な空き家である場合には「取り壊しなさい」ということを家主さんに言っても、取り壊さない場合には、行政がそれを取り壊しても良いという権限も新たな法律の中でできた。取り壊した費用は、家主さんに請求するという形になっている。

・市の中に「特定空家」がどのくらいあるかは、今年度調べを進めているところ。「特定空家」ともなると、調べなくても地域の方々が「あそこの空き家は崩れそうで危険だね」「治安上問題がある」とかを把握されていると思う。そういった情報を地域づくり課に上げていただくと、そこを担当が見に行き、きちっと精査をするようにする。

・空き家の使い方については、国でも空き家を介護施設にできないかとか、空き家とか、空いているアパート、マンションを準公営住宅として活用できないかという案も出てきている。これまでの規制のままでは、準公営住宅として使うことができない。これから新たな市営住宅を造る時代ではないので、街中で空いているアパート、マンションを借り上げて、行政が家賃補助して入ってもらえばいいと考えていた。難しいのは、公営住宅には造り方の基準があってその基準を満たしていないと公営住宅として認められないということもあって、考えで終わっていたが、国の方に規制緩和を求めていくというような流れだと思っている。

・街中の利活用については、空き家を店舗として新たに使う方法もある。本通はシャッターが降ろされているところもあって、そこで若い人たちにやってもらえないかということもずいぶん検討をしているが、裏側に人が住んでいて、電気、ガス、水道は一緒に、トイレも一緒となると、表だけ貸すということが現実的に難しい。道路に出るために店を通り抜けて出るといった中で、表だけは貸せないといったことや、土地を借りている方も多く、地主が別ということが本通には多い。

・このような課題があって、街中の空き家対策が進まないが、例えば、皆さんが集まる「居場所づくり」にも使えると思うので、地元から要望を上げてい

ただけると使い方がしやすくなると思っている。

■マイナンバー制度について

- ・昨年、個人番号といって、皆様のところへ届いたと思う。あの番号はこれから、色々な申告の時とか、後々には銀行の口座を開設するときとか、いろんなときにあの番号が必要になるので、忘れない場所にしまって、番号を控えておいてほしい。
- ・あの番号の通知だけではなくて、申込書が同封されていたと思うが、写真を一枚添えて申請していただくと、「個人番号カード」というものを、今は無料で皆様にお渡しすることをやっている。
- ・「個人番号カード」は、身分証明書の代わりにもなるし、持っている、島田市は29年の1月から、コンビニとかで住民票や戸籍などの抄本等をとることができるようになる。
- ・こういった便利な機能をつけて普及を図りたいため、島田市でもコンビニ交付をするために1通当たり123円だったと思うが、島田市がコンビニに手数料を支払わなければならない。
- ・それでもなお、皆様の利便性を高めることで、すでに税金等をお支払いをコンビニで払えること。そしてまたコンビニで証明書がとれるようにといったこともやり始めている。
- ・コンビニで証明書をとるには、「個人番号カード」を持っていないととれない。
- ・つい2～3日前、どれくらい（「個人番号カード」の）申請があったか確認したところ、概ね3,100人だった。全体の3.1%となっている。国は目標を7%としている。全国的にこの目標値には達していない。是非、4月までに申請をしていただいて、もう少し、「個人番号カード」を身分証明書や便利な機能を使うために、皆様を持っていたらありがたい。「個人番号カード」の交付申請をお願いしたい。

③質疑応答

番号	質問内容	回答内容
1	■市長とこうして顔を合わせてお話しできる機会はめったにないので、今日のこのような会合ができたことは大変ありがたい。お話を伺って、大体市の方針は100%ではないが賛同できるので安心した。市民会館の問題だが、私は必要ないと思っている。夢づくりもあるし、おおるりもあるので十分とは言えないが、当面、間に合っている。市民会館で催し物や演劇をやった場合、そこに来れる人は恵まれた人。行きたくてもいけない人はいる。そういうお金があったら、そういう人たちのために、	●市民会館を建てるお金があったら福祉に使ってほしいという話だが、先ほどはお話ししなかったが、広域行政というものを進めている。島田も焼津も藤枝も同じような施設を、みんな一つずつもつような時代ではなくなっている。車があつて行き来できるし、色々な（交通）手段がある中で、みんなで使う施設をつくっていけばいいし、それぞれの市が持っている施設を補い合いながら使えばいいと思っているので、今、市民会館の代わりに焼津の市民センターを使わせてもらっている。 ・福祉にお金を使ってほしいということだが、今までの島田市の一般会計は大体367億円、370億円程度だが、そのうちの3割が毎年扶助費という福祉関連、福祉、医療に使われるお金となっている。今年の当初予算を見ると33%、3%上がるということは10

	<p>要するに福祉のほうへお金を使ってほしい。市民会館は建てないと聞いて安心した。もう一つは在宅介護の話は出たが、民間の介護施設が建っている。この介護施設をたとえば「ぎんもくせい」(養護老人ホーム)や「永福荘」(特別養護老人ホーム)のような、安くて入る公営の介護施設が大変不足していると思うが、これを建てるという話はなかった。この点どうなるのか。もう一つ、今、高齢者の車の運転が大変危険だということが報道されている。高齢者が免許を返すと車に乗れないため、タクシーを利用する。タクシーの割引が1割となる証明書を警察のほうで交付している。これをたくさんの高齢者から免許を返納してもらうために、タクシーの割引を10%ではなくて20%、30%、50%とかいうことを、先ほど申し上げた福祉のほうに回すよう、市が援助できないか。</p>	<p>億円くらい違う。昨年に比べて10億円くらい福祉にかけているという当初予算の編成をしている。</p> <p>●民間の介護施設が高いので、市営の介護施設をもっと増やしてほしいとのことだが、市営で新たに造るという動きはない。ただ、定員を常に満たす、できるだけ待機が出ないという工夫をしている。民間の施設に入っている方でも、所得の低い方には補助を出すというやり方をしている。</p> <p>●高齢者の車の危険が心配なので、タクシーの割引券ということで、できたら半額とか、1,000円出してくれると市民病院まで行きやすいと思うかもしれないが、同じことを私も考えて、私の想定では、75歳以上として、今、島田に14,800人いる。この方々が月に1回市民病院に通うとして、片道千円補助するとする。月に1回2,000円。これが12か月。そして14,800人を掛け合わせると5億円のお金がかかる。障害者にはタクシーの補助券が出ている。重度の障害の方には1回1,000円のタクシー券とかが出ているので、ぜひ高齢者のもできないかということで検討したが、額があまりにも大きく、しかも75歳以下でも必要な人はいるわけで、75歳以上で必要のない人と、74歳以下で必要な人とを、どこで線を引くのかという問題が難しく、検討を続けているところ。</p>
2	<p>■島田市議会の定例会には大体傍聴に行っているが、12月3日の本会議で森議員と清水議員のところを聞いていた。ふるさと納税について、もう少し積極的に島田市として取り組む必要があると考えている。例えば焼津市はマグロをベースにして、ふるさと納税を設定して億単位の収入を得ている。もっと力を入れてもらいたい。財政を少しでも楽にしていこうという配慮が足りない。二番目は、お茶のまち島田市を打ち出すために、私がアンケートで記入したことは、健康宣言をしたらどうだということが大事だと思う。島田市は野球のまち。ソフトボール、ゲートボール、この人口は多い。島田市は高齢者の参加者が多い。これは健康のため。健康宣言するためには、データも必要なので、健康年齢を(寿命ではなく)高いほうだと思う。健康宣言して、島田市のお茶をPRする。お茶を飲んでるから健康ですと。</p>	<p>●ふるさと納税については、私も同じことを思っている。28年度は人も増やし、専任で特に力を入れるようにと指示している。特に大規模な寄附に対しては、特色ある記念品の贈呈が必要であるため、例えば、大井川鐵道の一両借り上げとか、大井川マラソンに出たいけど出られない人(先着順で応募できなかった人)のために、50,000円の寄附をいただければ、出走権を与えるという取り組みを行い、43人だったか(実際には27人)、125万円くらい(実際には135万円)、これでお金が入っている。このような、特色のある記念品をつくりながら、ふるさと納税にはしっかりと力を入れていく。今は、金額的には2,000万円くらいの寄附がある。島田の場合は約半分を記念品としてお返ししている、昨年からはヤブーの「ふるさとチョイス」というところに上げているので、手数料等にかかるが、皆様に検索していただきやすくなって、そこから急激に応募の件数も増えている。島田市民の皆様がたくさん寄附をいただくと、8千円の所得控除がある。1万円の寄附をいただくと、お返しを差し引くと(市の)収入はゼロになってしまう。市外の皆様から寄附をいただくことが必要となっている。</p> <p>●記念品にトーマスの乗車券も考えたが、トーマスという名前にロイヤリティがかかっており、イギリスの本社がロイヤリティをもっていることから、その許可が難しい。このように、使いたくても使えないというものもある。ただ、それぞれのまちが工夫しているので、島田市も工夫していきたい。</p> <p>●健康宣言の話は、いい御提案をいただいた。島田は健康長寿の街であり、どの自治会にもグラウンドゴルフ場があり、健康マイレージの事業も進んでいる。また、おおりの1階で実施している「元気アップシニアサポーター養成講座」高齢者向けの機器が大</p>

		<p>変人気で、男性の方に多く利用していただいている。5台で600万円の機器を新たな予算で、夢づくり会館の中にも整備していく予定となっている。この健康宣言のご提案については、参考にさせていただいて積極的やっていきたいと思う。</p> <p>●お茶のまち島田市については、昨年11月に新市誕生10周年記念式典の場において、シティープロモーションということで、「島田市緑茶化計画」というものを発表した。職員名札にも緑茶化計画を入れている。これは、海外向けには、売れるお茶を作っていくということと、国内向けには、島田の人が、どれほどお茶にこだわりのある人たちかということ、ユーモアをもってアピールしていくことで「緑茶のまち島田」を根付かせていきたい。例えば、新茶の時期には、1年間お茶を買い込むし、旅行の際には、女性の方は茶葉を袋に入れてもって行くし、蛇口をひねれば緑茶が出るし、お茶に対するこだわりは、全国的に見れば、他に人たちが見ればびっくりするようなこだわりを持っている。島田は緑茶の街だということをしっかり売り込んでいきたい。このプロモーションを28年度もアドバイザーをつけてしっかりやっていく。</p> <p>●また、市民の緑茶化への取り組みに対して市が支援する予算をつけた。例えば、少年団がユニフォームを緑茶色に替えるなら、そこに支援を出したい。グラウンドゴルフのゼッケンを緑茶色に統一したり、島田市緑茶化計画というロゴを入れて、いつもそのゼッケンを使うのであれば、そこにも支援をしていきたい。担当は広報課になる。</p> <p>●緑茶化計画のロゴは、インターネットからも取れるし、広報課からももらえるが、商売に使っていただけて結構。これでお金儲けしていただけて結構なので、この柄を使ってペットボトルを作る、紙コップを作るのでも、何に使ってかれてもいい。フリーで使っていただけて、島田のまちが緑茶のまちだと、「島田市緑茶化計画」はお茶の振興ではなくて、島田を元気にするための、売り込むための「キャッチフレーズ」である。稼ぐお茶と同時に、島田市民が全国に誇れる「お茶のまち」ということで、元気と、誇りを持てるきっかけにしていきたい。今後、PRの動画も作製していきたいと考えている。</p>
3	■島田の逸品は、高校生も入って厳正に審査された品で、この中にお茶の関連の品が4品も入っている。このような品をふるさと納税の記念品に活用していくことが大事だと思う。	●抹茶のチョコレートは大変おいしい。食べたことのない味。島田の逸品についても力を入れてやっているの、今年もやります。応募いただいて、一次審査を追加した場合には、現物をPR、売り込んでいただいた中で10品を決めた。中には全国シェアの高いもの、これから伸びていく可能性のあるものもあるので丁寧にやっていきたい。
4	■島田の逸品は、いつも売っているところはあるのか。	●イベントのときなどに販売をしている。全部まとめて販売をしているということはないが、それぞれのお店に行けば購入することはできる。空港にもおいてもいいと思う。
5	■大祭の前夜祭はどうなったのか？	●前夜祭は実行委員会で検討をしている。国宝級の長唄の師匠さんを招くには、相当早くからの予約が必要で、お通りの舞台の上に乗れるかという課題もある。今年は、例年1年前から準備をするが、2年前から準備に取り掛かっている。この理由は、人もお金も続かないという危機感を持っているから、準備に時間をかけている。この大祭は、

		<p>市でも特別であるという認識をもっており、5,000万円程度のお金を投入している。前回は、間に合わないということで中止して、その前夜祭についていた400万円の予算をお祭りの方に上乗せして使っていただくということとした。今年はそのお金も含めて、お祭りの方のお金につけている。実行委員会では、お祭り広場をどこにするか、大名行列の最後の本陣入りをどの場所でやるのか、前夜祭をどうするのが大きな課題となっているが、どれもまだ決まっていないと聞いている。こうした中で、前夜祭をやるには、タイムリミットが近づいてきている中で、ずっとやってきていたわけではない。今年108回目になるが、110回目とかの記念の年にやることで準備することも一つの方法であると考えている。</p> <p>●実行委員会は、前夜祭、大祭は別につくらないと、準備ができないのではないかと心配をしている。お祭りをやりながら前日にやるのは難しいところがあるというのが現実であると考えている。</p> <p>●それぞれの街で人が足りないということで、市内全域から参加してもらおう人を集めている。定期的に入ってきてくれる人をどれだけ増やすかが課題となっている。</p> <p>●大祭は、大きな家柄の人たちが何軒もあって、街ごとに大きく支援して、祭りが成り立ってきたと思う。そうした大きな家柄の人たちはもうないわけで、お金は前と同じようにかかる。根本的なところで大事なものは続けていかなくてはいけないが、時代が変わってきている、商店も減ってきている中で、どうやってつなげていくのかという知恵がいる。</p> <p>●大祭は全国に誇れる祭りである。島田市全体が関わる祭りとして相応しい祭りであるが、長い歴史の中で、あの祭りは街の中の祭りだと周辺の人たちは思っている。このため、今、全体の祭りにしたいと思っても、それぞれの地域は、同じ時期に違う祭りをやっているという状況なので、島田市全体の祭りには工夫がいると思う。</p> <p>●金谷茶まつりは、もともと中心街のお祭りだったと思うが、屋台を金谷全部の自治会から出すことで、全体の祭りをつくった。こういった、全体の祭りをするための工夫というものを考えていかないとならないが、それぞれの街が口上、しきたりにこだわって、自分たちの文化や伝統を守ってきている。全体の祭りにしてしまうと、それぞれの街の伝統やしきたりがどうなってしまうのかということもある。</p> <p>●大祭はこのような状況を考えると、重要な局面にきている。全国に誇れる、世界に誇れる祭りだと思えるよう、島田中の人々が祭りを理解し、全国に発信していかなくてはならない。</p>
6	<p>■大祭研究会を組織しているが、島田大祭といえば、芸人の世界では登竜門として知られていて、関西方面では、伝統と文化が栄えたまちとして知られている。これを地元の人に知ってもらわなければならないし、見ても</p>	<p>●お祭りは島田市が主催でなくて、決めることは保存会や実行委員会が決めている。前夜祭のやり方は、工夫次第だと思う。前回は、中学生をお祭りに出せないかということで、教育委員会と協議したが、お酒を飲む機会があるということで、街の方から断られた。小学生や中学生がお祭りに関わることで、伝統・文化を知ることができるし、ふる</p>

	<p>らうためには伝えていくことが必要。では、何をやればいいのかということになるが、ターゲットは子どもだと思ふ。島田の伝統・文化は大祭につながっているの、それを子どもたちに発信、教えることで、子どもたちがお祭りを好きになる。そうすれば島田を好きになる。島田の発展にもつながる。また、観光、外の人が島田に来てお金を落とさなければ島田の発展はない。子どもたちの教育につなげなければ、お金をまわしてもらわなければならない。それを前夜祭をやらうことで、子どもたちが三味線もって、ちょっとした曲を弾けること、これが島田なんだと全国にPRしてほしい。大祭は大奴だけではないと思ふ。</p> <p>100人～200人の雛壇をつくってやらなくてもいい。1～5街に来ている芸人さんが舞台上がってもらっただけも形になる。であれば400～500万円の範囲で十分にできると思ふ。</p>	<p>さに戻ってくる(回帰してくる)、大きな理由付けである。</p> <p>●話は変わるが、今年、30歳の同窓会を実施する。首都圏に出た若い人たちに、一度島田に戻ってきていただいて、一堂に会して、島田に残っている人にも話を聞き、島田でどんな仕事があるかという話も聞いて、30歳ともなると、この先ずっと都会でやっていけるのかと色々考える時期となる。その時に、島田市に帰ってくるのも一つの道ではないかということを考えてもらえるきっかけにしたい。</p> <p>●是非、子どもたちを大祭に入れてほしい。</p>
7	<p>■市民病院の建設予定地の地盤が悪いと聞いているが？</p>	<p>●一昨年、ボーリング調査をしている。液状化というのは地面の中が砂地になっていると起こるが、市民病院の土地は下が粘土層であるので、県の第四次被害想定では、液状化の可能性は低いといわれている。ただ、岩盤まで距離があるため、くいを打って、地盤補強をして、そこの建物を建てるということになる。</p> <p>●また、道路は大丈夫かという質問を受けるが、国道1号、県道についても、ひび割れ等が入ったとしても、液状化で使えなくなるという想定は出ていない。</p> <p>●したがって、あの土地に病院を建設しても、液状化の心配はないと思っている。</p>
8	<p>■マイナンバーのことは知っているが、カードを作るとのメリットがPRされていないのではないかと？例えば、書類の交付の手数料を割引するなどの方策も同時に検討したらどうか？</p> <p>■情報漏洩の心配も一方ではある。</p>	<p>●北海道の最果てでもカードがあることによって住民票を交付してもらうことができる。そういう意味では便利になるし、利便性を高めることは色々やっている。例えば、保険証と同じ番号で保険証の代わりになるとか、病院の診察券の代わりになるとか、市民の生活に利便性のあるものにならないと、そのようなものが付加されていないと普及しない。</p> <p>●また全ての国民に届いているわけではないというのも事実。</p> <p>●セキュリティについては、市役所の持っているデータと、取りに行くところのクラウドのところは切断されているので、無条件に情報が流れてしまうことはない。</p>
9	<p>■カードを紛失した場合に悪用されることはあるのか？</p>	<p>●身分証明書としては使える。4月から、(実際には29年1月から)インターネットで自分のカードの情報がどのように利用されたかという履歴を確認することができる。</p>
10	<p>■住基カードに代わるものと認識しているが、併用はできるのか。</p>	<p>●住基カードは平成28年1月から発行しないことになっている。利用については、取得後10年は使えるが、個人番号カードの取得後は使えなくなる。確定申告の場合には、</p>

		<p>昨年の収入に対するものなので、今期の確定申告で個人番号カードは使えない。来年の確定申告から使える。</p>
11	<p>■カードをなくした時には再発行できるのか？ ■番号は変わるのか？</p>	<p>●カードそのものをなくした場合には、新たなカードを発行しなくてはならない。市民課に個人番号の相談窓口がある。 ●詳細はわからないが、不正に使われる恐れがあるのであれば、新たな番号のカードを発行しなくてはならない。 ●カードの発行は、受付は市で行うが、発行は総務省となる。申請の時に市で申請いただければ、総務省からカードが郵送され、郵送で申し込みをした場合には、市に取りに来ていただくようになる。</p>
12	<p>■民生委員をやっている、関わっている方で透析を週3回しなくてはならなくなって、はじめは市民病院でやっていただいていたが、他の病院で透析を受けてくださいといわれた。市内には中原病院が透析をやっていただけが、患者さんが多く受けていただけないので、焼津、藤枝の病院を紹介された。当然タクシーの利用ということにもなり、ご本人はずいぶん悩まれていた。現在は、体調も安定しているので、ご本人が自家用車で通院している。できれば、患者さんの負担を減らす意味からも、市民病院のベッド数を増やすとか、民間の透析のできる病院を誘致するなどの方策を検討していただきたい。</p>	<p>●新たな市民病院では、今の救急センターを透析センターとする計画を考えている。ベッド数は、40～45程度になると思うが、基本計画の中でもお示ししている。今よりも倍以上、機能は充実すると思う。 ●透析の患者さんは、第1級の障害者手帳を持つことになり、様々な税金の免除やタクシーチケットも利用できるし、高速道路料金も無料であるし、車の購入時にも税金の控除がある。 ●透析の患者さんの医療費は高額ではあるが、1ヶ月1万円以上かからないようになってきていると思う。このように手厚く支援している。 ●透析の病院の選択は、透析患者が増えている現状では、今のところ一番近くで、ご自身が通院できる病院でお願いしていくしかないことを御理解いただきたい。</p>
13	<p>■「24時間訪問看護ステーション」を整備する話があったが、これは介護施設に変わる施設として整備するのか？</p>	<p>●24時間訪問看護ステーションは、介護施設に変わる施設として整備するのではない。訪問看護ステーションが行う訪問看護とは、自宅やグループホーム・介護サービス付高齢者住宅等から医療機関に通院することが困難な方で、主治医が在宅での医療や看護が必要と判断した方に指示書が出され、この指示書に基づき、訪問看護ステーションの看護師が利用者の自宅等を訪問し、医療・看護を提供すること。 これまで市の訪問看護ステーションでは、平日の昼間の時間帯に限りサービスを提供していたが、緊急対応が必要な方には、夜間でも対応できるよう、訪問看護体制を強化していくものである。</p>
14	<p>■現在の市民病院は産婦人科の出産を制限しているが、新病院ではどのようになるのか？</p>	<p>●これは、医者数をどれだけ増やせるかということにかかっている。今でも産婦人科の先生が常勤で3人以上いれば、もっと出産の数を増やすことができる。現在は常勤の先生数が少なく、非常勤の先生に来ていただいているため、出産の対応が、月に何十件という制限をかけている。このため、産婦人科の医師や小児科の医師を増やしたいという願望がある。特に産婦人科の先生は24時間体制での勤務になるため、ローテーションがきちっとできるような、休みがとれるところ（病院）でないと来てくれない。そうすると広域化の話のように、お医者さんを集めて、志太の中で、産婦人科はここ、出</p>

		産はここということを決めていくことも、これからの課題の一つだと思っている。
15	<p>■立派な病院ができては医者が確保できなければなんでもないと思う。</p>	<p>●私も定期的に浜松医科大学を訪問して、島田に医師を派遣して頂きたいとお願いをしている。服部事業管理者も全国の大学に先生の派遣についてお願いしているところである。市民病院は長いこと京都大学系の病院といわれてきたが、京都大学からは面倒見れないと言われている。昔の医局制度があって、教授が、この病院に行けとっていた時代には、島田にも来ていたが、今は、研修医が自分の研修する場所を選択するため、京都の学生さんたちは、関西圏から出たくない、言っても三重までだと言っている。このため、現在は、全国からお医者さんに来てもらっている。これから島田に医師を派遣してもらおう有力なところとして、浜松医科大学をしっかりと抑えていきたいと思っている。浜松医科大学は医師の定員増を含めて、県内の学生を多く採っているの、今年あたりから医師が増えていく。(6年くらいの間)この間に連携をとりながら、できるだけお医者さんの派遣をお願いしていくことは大事なことである。</p> <p>●島田市内の高校生の学力を上げて、国公立や医科系に入学してもらって、そういう人たちが島田市民病院に勤めていただいて、島田市内に開院していただきたい。市民病院に市内出身者は2人しかいない。地元の先生を増やしていくことが、地元を開院していただくという大きな力にもなるし、そうした場合には行政もお手伝いができると思う。根は深い、そういうところから考えていって島田に病院を増やしていきたい。</p>
16	<p>■ごみの減量化について、雑紙の減量化をすれば、再資源かもし、処理費用も抑えられる。市民には雑紙の分別に抵抗があるので、この抵抗を何とかなくして市民に協力してもらおうという取り組みを、百人会議の第二ステージで行っている。市民に協力してもらえよう形をどうつくるかということがこれからの課題となる。藤枝はやっているの、要は市民の意識だと思う。処理費(13億円)も安くなるというPRを自治会ごとにしていったらどうだろう。雑紙分別専用の袋を今のゴミ袋を活用して作るという案もある。雑紙の分別はインパクトがあると思う。</p> <p>■生ごみ処理の減量化については、自家処理として「キエーロ型」、「堆肥型」、「消滅型」がある。実際に取り組んでいる方がいるので、自治会などに体験談を聞いてもらう場を創ることも必要と考える。自治会ごとにキエーロ付きで補助金を出していくことで、ごみの処理費に対する市民の意識を変えていかなければいけない。</p>	<p>●古い衣類の分別の取り組みを始め、キロ当たり9円で売っている。これは、ごみの減量とともに収入も得られる。予想以上の反響があり、たくさんの衣類が集まっている。</p> <p>●雑紙の分別化については、紙はなかなか難しいと思う。生ごみの減量化については、三ッ合のほうでキエーロのモデル地区を定めて実験を行っているなど、色々取り組みをしていただいている。自治会の方への広報も行っている。</p> <p>●島田市の処理施設は、熔融炉であり、ごみが少なくても多くても(経費が)かかる。少なれば助燃材を使って燃やさなければならないので、この方式を選択したことがどうだったのかと思う。</p> <p>●確かに、再資源化や減量化は必要であると考えますが、一生懸命やっても、熔融炉にはそれなりの経費がかかってしまう。また、市民のアンケートで満足度一位は、ごみの処理となっている。雑紙の分別化は環境課でも課題としてあげている。</p>
17	■古着を集めるボックスの場所について、PRがされて	●一丁目で言うと一番近いボックスは、おおりの1階となる。ごみのステーション(集

	いないのでは？	積場)でも、衣類しか入っていないければ、別に持っていくことにしている。古着の収集は、再利用や市の財源確保にもつながるメリットがあるので御協力いただきたい。
18	■焼却炉の熱は、何かに利用できないか？	●発電している。 ●発電ということでは、28年度にたぶん決まると思うが、川根温泉でお湯の湧出と同時にメタンガスも放出されている。このメタンガスの採掘権(鉱山法に基づく)について、関東経済産業局に申請を出そうとしている。仮に採掘権が認められれば、メタンガスで発電をする。これは全国で初めての取り組みとなる。おおよそ川根温泉の年間の電力使用量の半分を発電で賄えると試算している。したがって、投資額に対して、4～5年で回収できると考えている。
19	■帯まつりの帯で一番高価な帯は家紋が入っているものだということを聞いたことがある。	●大奴の帯は高価で、一本2,000万円位するものもある。
20	■帯の保存はどこでやっているのか？	●大井神社で保存している。
21	■帯まつりを見に来た市外の方に、自宅の空いているスペースで、椅子を提供してあげたら、その後、農産物を贈ってくれたり親交が続いている。	回答なし。
22	■川根温泉の経営はどこになっているのか？	●日帰り温泉は、(株)川根町温泉が運営している。その社長は、名目上市長となっており、無給の社長となっている。利益の何%かを市に入れるということが決まっているので、昨年、1,500万円くらいを市の方に入れてもらっている。
23	■今回のメタンガスの申請は市が出すのか？	●市長の名前で申請する。メタンガスが微生物だそうで、濃度が変えられるそう。濃度が変われば、発電量も変えられると思っているので、このような研究をしている静岡大学の先生がいる。
24	■川根温泉ホテルの経営はどこになっているのか？	●ホテルの方は、指定管理ということで、5年間「時の栖」さんの方に経営をお願いしているが、指定管理料はゼロで、売り上げの純益の20%だったか、市の方に還元してもらおう約束でやっている。
25	■5年が過ぎればどうなるのか？	●また、指定管理の募集をして、契約をする。指定管理は、公園の樹木の選定・管理でもやっているし、歩歩路、ローズアリーナなど、契約の年数でやっている。

※ 回答は全て市長から回答した。

④当日の様子

